

千葉県立西部図書館



# サイエンス カフェ



2010年8月21日(土) 14:00~16:00

ゲスト **武田康男さん** 千葉県立東葛飾高等学校教諭

**第50次南極地域観測越冬隊員**

気象予報士 日本気象学会会員  
日本自然科学写真協会会員

南極で1年間を過ごした武田さんをゲストにお迎えし、南極の雄大な自然をご自身で写したすばらしい映像を見せていただきながら、お話を伺います。一緒に、地球環境について思いをめぐらせてみませんか。

<写真=武田康男さん(第50次南極地域観測隊員)>

会場：千葉県立西部図書館 2階 研修室

松戸市千駄堀657-7 電話 047-385-4133

JR新八柱駅、新京成線の八柱駅・常盤平駅からいずれも徒歩15分

対象：15歳以上の県民の方

申込み：必要。来館または電話でお申し込みください。(先着30名)

参加費：無料です。

飲み物：清涼飲料水等、お好きな飲み物をお持ちください。

自動販売機もございます。



## 南極だより

「毎日JP 2009年12月28日」より:毎日新聞社

私は南極で約1年間、大気中の二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)濃度や氷床の変化を調べる「気水圏モニタリング観測」を担当した。昭和基地が設置されて52年。継続観測で地球環境の変化が見えてきた。例えば、84年に始まった高精度のCO<sub>2</sub>観測から、南極でも濃度が上昇していることがわかってきた。

昭和基地では、年平均気温が100年間で1度程度の割合で上昇しているが、その変化は分かりにくい。南極半島のある西南極では、気温の上昇が大きい場所があって、棚氷の崩壊などが起きている。一方、昭和基地のある東南極は今のところは気温があまり上昇していない。

南極の空は、ちりや汚れが少なく、とても澄み渡っている。雪は純白に輝き、解けた水もきれいである。夕方になっても空は青く、氷山の氷は水色となり、辺りに美しい景色が広がっている。観測の合間に見る空に感動し、心がとても和んだ。ペンギンの集団繁殖地を訪れたときには、厳しい環境で生き抜くたくましさに感銘した。こうした中、異様に思えたのが、極成層圏雲と夜光雲の2種類の雲だ。極成層圏雲とは硝酸などを含んだ雲で、冬の冷えた成層圏にできる。私たちは、雲のある高度20キロ付近でオゾンが減っていく様子を観測した。夜光雲は高度80~90キロに、夏季に生じる。北極域に比べて南極域では観測例がとても少なく、人間の出した大気汚染物質が関係している可能性がある。昭和基地で私が初めて撮影した。

南極は、ありのままの自然が残された、たいへん貴重な場所だ。南極条約という仕組みに加え、どの国にも属さないことで、環境が守られている。これから心配なのは、地球上の淡水の90%を占める南極の氷がどうなるかということだ。

今、南極は白夜を迎えた。大陸の氷は太陽の光を反射し、夏の強い日差しでもなかなか暖まらず、地球のクーラー役を担っている。しかし、温暖化で氷が解けていくと、徐々に海面が上昇していく。

私たちは、南極から地球環境と直接向き合い、その変化を地道に観測している。今年は28人が、家族と1年以上離れ、食料など物資の出入りがない中、越冬生活を送った。地球の未来を展望する大切な任務と思い、極寒の時期を過ごした。

「南極の自然」の連載で、南極のありのままの姿を、写真を中心にお伝えした。連載は終わるが、南極はこれからも地球環境のバロメーターとして、私たちに大切なことを語りかけてくれるだろう。

<文・写真＝武田康男(第50次南極地域観測隊員)>

